

ベトナム語とキャリアのつながり



——APU 卒業生・山田さんのベトナム挑戦——

『ベトナムで築くキャリア、その原点は APU での学びにあった』

—— 現在はベトナム・ホーチミンで働かれているとのことですが、どんなお仕事をされているのでしょうか。

組織人事のコンサルティングファームの海外事業部で、ホーチミンを拠点に働いています。まだ立ち上げ段階ということもあり、日系企業を中心に顧客を開拓しながら、今後は外資系やローカル企業にも広がっていくフェーズにあります。

ホーチミンではレンタルオフィスに4人のチームで活動しています。ベトナム人スタッフが2人(うち1人が駐在員でAPUの卒業生)、日本人は私含めて駐在員2人。さらにハノイにもベトナム人スタッフが1人、来月にはもう1人増える予定です。



『ベトナム赴任への道のり』

—— **ベトナム赴任が決まったきっかけを教えてください。**

去年の1月に、会社の海外事業部が立ち上がったんです。シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピンの4拠点を同時に立ち上げるという大きなプロジェクトでした。今年の1月からはインドネシアも追加して、ハノイも立てました。

その時に、社内で「グローバル展開やります、やりたい人公募です」という形で募集があって。エントリーシートを書いて、経営陣の皆さんにプレゼンして選んでいただきました。海外展開で選ばれたのが全部で11人だったんですが、その中で5人がAPU生なんですよ。ベトナムに私ともう一人、シンガポールに一人、タイに二人います。

—— **最初からベトナム希望だったんですか。**

実は最初はフィリピンの予定だったんです。「どこでも行けます」というスタンスで臨んで、フィリピンに内定が出ていたんですが、市場の問題などもあって「ベトナムに人を寄せよう」ということになり、ベトナムになりました。でも、APUでベトナム語を学んでいたこともあって、むしろ良かったなと思っています。



(写真：山田さんの会社が事務所を構えるオフィスビル)

『ベトナム語との出会い——言語が開いた扉』

—— APU でベトナム語を学ばれていたんですね。ベトナム語を選んだきっかけは何だったんでしょうか。

仲良くなった友人がベトナム人だったことが大きいですね。あとは、正直に言うと単純に「履修登録のクリック合戦」に負けて、、残っていたのがタイ語とベトナム語だったというの也有ります(笑)。

でも、将来を考えた時に、ベトナム語ができる日本人って少ないし、希少性があるなど

思っ。これが自分の武器になるかもな と考て選択しました。

—— 社内選考の際、ベトナム語ができることはアピールポイントになりましたか。

オーディションの時に自分の強みとして言っていたのは、「ベトナム語ができます」というよりは「そういうマイナーな言語やローカルの言語を学ぶ姿勢があります」という点でした。ベトナム人の同僚がいるので、言語力そのものでは勝てないですが、相手を分かろうとする姿勢が一番大事だなと思っています。

ベトナム人にベトナム語だからこそ通じる、少しでも喋れるからこそ関係ができるというのもすごくあるなと思っています。ちょっと「シンチャオ(こんにちは)」と言うだけでも、グッと近い感じがありますよね。「美味しい」とか、そういう言葉でレストランの人と仲良くなっておまけをもらえる、みたいなこともあります(笑)。



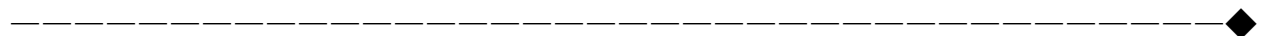
『文化理解の重要性——言語の向こう側にあるもの』

—— APU でのベトナム語の授業で、特に印象に残っていることはありますか。

APU のベトナム語の授業で良かったなと思うのは、言語だけでなく、先生が音楽、V-POP を教えてくれたりしたことです。「これ流行ってるよ」というのを教えてもらって、それを使ってローカルのスタッフの子たちと会話もできました。

文化の理解までできたかという、まだまだだと思うんですが、それを知ったことで話題という「コンテンツ」ができて、コミュニケーションが生まれているなと感じます。

言語って、ただの言葉じゃなくて、文化への入り口なんだなと実感しています。



『ハノイでのインターン経験——学びを実践に変える』

—— 大学時代にハノイでインターンをされていたそうですね。

はい、2 回生が終わった後、1 年間休学してハノイに行っていました。当時、スタートアップの IT 企業で、私以外全員ベトナム人というローカルの会社でインターンをしていました。オフショアの会社だったので、お客様の 8 割ぐらいが日本企業で、そこでの翻訳やブリッジ SE みたいな形でインターンをしていました。

—— どうしてインターンをしようと思ったんですか。

ベトナム語をもっとやりたいなと思いつつ、現地に行って語学学校に行くだけでは意味がないなと思ったからです。何かコンテンツとなり得る自分の経験を積もうと思って、

インターンを選びました。この経験が今の仕事にもつながっていますし、実際にベトナムのビジネス文化を肌で感じる事ができたのは大きかったですね。



『APU 生の強み——適応力と異文化理解』

—— APU 生として、海外で働く上での強みはどんなところにあると思いますか。

APU 生の強みは、やはり異文化理解と適応力だと思います。APU ってお互いの文化を尊重するじゃないですか。その延長線上で、無意識に「環境に適応しなきゃ」「彼らを理解しなきゃ」という姿勢が身についているんだと思います。

その「何人(なにじん)とか関係ない」という感覚は、異文化理解においてめちゃくちゃ強みとしてあるんだろうなと思います。中途半端にローカルの人を見下すような駐在員も世の中にはいますが、APU 生はそういうところがなくて、フラットに相手と向き合えるんですよね。

ベトナムの文化を理解した人がマネジメントになるのはすごく大事だと思っています。ビジネスとしては、セールスとコンサルタントで分かれていて、基本的には現地のベトナム人スタッフがコンサルタントとしてやっていて、そこに APU 卒の子がマネジメントとして入るという形なんです。



(写真：オフィスビル内のミーティングルーム風景)

『新拠点立ち上げへの挑戦』

—— 今後の目標を教えてください。

今後はもっと拠点を拡大していく予定なんです。新しい拠点を立ち上げるとなったら、真っ先に名前が上がるのは「山田だ」と言っていただけるように頑張りたいです。

実は、ハノイを立ち上げた時も、去年の6月から9月の間、1人で「ちょっと行ってこい」と言われて。1人で畑を耕して、顧客も作って、1月から正式にスタートさせました。そういう経験を積めたのも、APUで培った適応力や、ベトナム語を学んだことが基盤になっていると思います。

